

防災訓練の考案

動機

野々市市の災害対策について調べていたところ、自分の住んでいた町や、比較対象で調べた都市と対策の量や質の違いが大きく、もし、現時点で災害が起こるとしたら、十分な対策や、訓練の意味がないと思った。野々市で起こりうる災害を予測し、訓練や対策をもっと効果的にすることで、被害を最小限に抑えることができると考えた。

現状・比較

金沢市と野々市市を比較したところ、野々市市は・・・

- ・ 訓練数が多いが、短時間でこなしているため、身につにくい。
- ・ 野々市市の活動は、学校・地域によって活動の差が激しい。 などの問題点がある。

そこで・・・

改善策

小中高防災レベルアップ作戦！

防災レベルアップ運動とは・・・小・中・高に進学するにつれて防災に対する知識・技術を向上させていくべく防災訓練の幅を広げて仕組み

目的・・・自助共助のために動ける人材を育成する

- ・対象者・・・野々市市に通う学生 ・開催について・・・年に3回(春と夏と秋)大型連休のはじめ
- ・協力機関：消防所、警察署、野々市自警団など。

内容

小学生の訓練

自助について学ぶ→知識中心

- 春・・・学校の中に居る時の場合の避難訓練
- 夏・・・避難ルートマップの作成
- 秋・・・被災者や消防署等の協力機関による講話

自助に対する知識をある程度身に付けることで、中学生、高校生でより高いレベルの訓練をすることができると思う。

中学生の訓練

春：学校にいたときの場合の訓練(地震・火事など)

夏：共助について。倒壊した家から救出する際の道具等の使い方、負傷者搬送やけが人への対応の説明を聞き、実習を行う。

秋：要援護者(高齢者、妊婦)について、対応の知識、講習を行う。

少しレベルが高い訓練をすることによって、大人になっているという自覚や責任感を目覚めさせることができる

高校生の訓練

春・・・学校での避難訓練

夏・・・炊き出し、救命方法、テントの設営方法等の実習

秋・・・災害時の救助の流れを学ぶ講習(物資管理、情報伝達)

自分がしなければいけないことを体験することで責任感や防災意識を持ち共助に努めることができるようになる。

考察

野々市市は防災についての意識が薄く、災害に強いまちであるとは言えない。また去年新たに市となり、これからさらに大きく発展していく野々市市において、防災について考えること、そして野々市市に根付いた市民を増やしていくことではないかと私たちは考えた。「小中高防災レベルアップ作戦」は「防災時に活動できる野々市市に根付いた人材」の育成を目的としている。現在、野々市市内の学校に通う学生が、将来野々市市に住みたい、自分たちでこの市を守っていきたくてこの作戦を通して、防災について、そして野々市市について知ること、そういった学生が増えていくのではないかと考えこの改善案を考案した。

金沢工業大学
2020年度 プロジェクトデザインⅡ

プロジェクトテーマ : 防災訓練の考案
クラス番号 : VA302
チーム番号 : 1
チーム名 : MINTIA
チームメンバー名 : 出藤元哉 寺田直美
中川真登 中田 匠
長野文哉 西龍太郎
担当教員名 : 後藤 正美